「令和２年７月豪雨災害」状況報告（7 月 11 日（土）20 時現在）

特非）全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）

7 月 4 日より降り続く大雨の影響により、各地域において被害が出ております。
本日、九州地域３県（熊本県、福岡県、大分県）において、支援組織等による情報共有会議がそれぞれ開催されました。県庁、県社協からも情報を上げていただき、被害状況の確認、災害ボランティアセンターの設置状況、県内支援団体の動きなどの情報が共有されております。

人吉市内の様子＠JVOAD

■　熊本県

県内の状況

・本日大雨により、人吉市および熊本県内の災害ボランティアセンターは全て活動中止となっている。
・熊本県内において、全半壊 374 棟、床上浸水 4980 棟以上。施設被害 128 施設。
・避難所の状況は、県北においても複数開設されており、熊本市も 20 か所開いている。雨が降り続いていることにより、避難指示が出るたびに人数変動。
・入浴施設の無料サービス 29 か所、自衛隊風呂の設置も継続中。
・災害廃棄物については、人吉市において、環境省・自衛隊・県・市の連携事業が昨日より開始された。大型災害廃棄物（畳、家電、大型金属、机、棚など）について仮置き場や大きい道路へ住民の方が出すと、自衛隊が運ぶ。本日より実施され、大雨のため途中で中止されたが、明日以降も実施予定。
・芦北町、多良木町、五木町、球磨村にて孤立世帯が残っている。
・小国町については、一部孤立が解消された地域もある。
・道路状況については、212 号は通行止め。ミルクロードは通行可能。
・環境省より、新型コロナウイルスなどの感染症対策のための避難所のごみの出し方について、避難所運営者向け、避難者向けのチラシが作成された。今後、周知していく予定。

支援団体の動き

・県内の支援団体により、人吉市、荒川市、小国町、南小国町等の被害状況が確認された。
・小国町、南小国等に関しては、災害救助法が適用されないため、民間でできる支援を県内団体が検討中。
・災害ボランティアセンターへ（熱中症予防のため）飲料等支援を県内団体が検討中。

今後の課題

・避難から一週間経ち、知人や親戚宅に避難されている方の心労やストレスが増える可能性がある。過去の災害でも、知人や親戚宅に避難された方が、再び避難所に戻る方もいらっしゃった。今後、傾聴ボランティアの必要性も出てくるかもしれない。ただし、コロナ感染拡大防止の観点からは、傾聴ボランティアにもソーシャルディスタンスをどのように確保しながら支援にあたるか、課題もある。

■　福岡県

県内の状況

・避難所や避難者は減少傾向にあり、県内では被害が最も大きいとされる大牟田市でも合計で 30 名程となっている。
→支援団体の現地確認では、浸水地域でも在宅避難が多く、今後の生活状況が懸念される。
・大牟田市、現時点での行政発表は床下床上浸水あわせて住家被害 2000 件ほどとなっているが、今後件数の増加が見込まれる。
・災害ボランティアセンターは、大牟田市と久留米市共に 7/9 に開設。ボラ受入での活動は雨天中止により、実質明日から本格始動する。詳細は、福岡県社協 Web サイトからご確認ください。http://fuku-shakyo.jp/kouhou/R2saigai.html
・災害 VC から、床下の水抜きができる支援団体を探しているという要望あり。対応できる支援団体と直接協議を進める予定。

・連日の降雨により、まだ被害の全容が把握できていない地域もある。

支援団体の動き

・地元 JC や地元生協等が災害 VC と連携して資機材や人的な支援を実施している。

・弁護士会が来週より、相談窓口と無料電話相談を実施する為に準備している。

・朝倉市でも被害が出ており、地元団体で対応している。農地については「JA あさくら農業ボランティアセンター」が JA や社協と連携し対応予定。

※被害状況や避難状況は、福岡県の Web サイトからご確認ください。

https://www.bousai.pref.fukuoka.jp/emergency/detail/408

■　大分県

県内の状況

・県道は未だ 54 か所通行止めであるが、徐々に復旧しつつある。本日、電話、電気も通じる。

・家屋被害　日田市、竹田市、由布市において全半壊 10 棟、浸水被害は床上 122 件、床下 188 件ほど出ている。家屋被害は今後 200 件ほどになるのではないか。

・避難者は天ケ瀬、中津江、小野地区において、多い日は 4～500 人ほどいる模様。避難所の開設数を増やしている。

・避難所の感染症対策については、間仕切りが用意されている。

・中津江は大規模な土砂崩れにより、老人福祉施設等、被害を受け、通信、電気、水が止まっていた。本日になり孤立解消。

・一般家屋とともに、温泉街の被害も出ているため、そちらにもボランティアの必要性を感じている。

※九州地域の情報共有会議

熊本県「第 5 回火の国会議」主催：KVOAD　参加者：約 34 名

福岡県「令和 2 年 7 月豪雨福岡県情報共有会議」 参加者：約 90 名

主催：福岡県災害ボランティア連絡会、NPO 法人ふくおか NPO センター、
一社九州防災パートナーズ、NPO 法人 Angel Wings

大分県「おおいたの被災地支援をみんなで考えよう！」 参加者：約 60 名

主催：おおいた NPO デザインセンター、NPO 法人リエラ

■　災害ボランティアセンターの設置状況

災害ボランティアセンターの設置状況の詳細は、下記 URL 全国社会福祉協議会「被災地支援・災害ボランティア情報―2020（令和 2）年 7 月豪雨特設ページ」よりご確認ください。

https://www.saigaivc.com/202007/

コロナ禍において、地元の支援組織も、支援に迷うところも多くあるようです。地元の意向を大切にしながら、引き続き JVOAD としてもサポートを続けてまいります。